第１回　障がい理解の啓発活動をする部会まとめ

開催日：令和７年６月２４日（火）

場　所：大町市総合福祉センター　大会議室

参加者：別紙のとおり　17名

１．部会長及び副部会長の選出

部会長　　梶山宗有　様（NPO法人　なかまと）

副部会長　藤巻光作　様（NPO法人　キッズウィル）

２．正式な部会名

「障がい理解の啓発活動をする部会」

３．活動計画について

（事務局からの提案）

　・ドキュメント映画（「みんなの学校」）の上映　９月か１０月くらい

　・障がいの理解に対する研修会、勉強会

　・利用者の対応についての事例検討会

（意見）

　・範囲が広すぎて絞り切れないので、まず、誰を対象に活動するか。

　・全国の病床数を減らすという話が出ており、精神科の病床数も５万３千床減らされる。大北圏域、松本圏域だと663床のうち約100床減ることになるが、どこが受け入れるのか。民間のアパートなど活用できれば良いが、障がいを持った方への理解が進まず偏見のある地域も見受けられる。

　・人口減少に伴って、担い手不足が深刻となる。今の仕組みの中で支援を継続するのは、もう事実上破綻している。病床数が減らされる中、グループホーム、入所施設には入れません。では、地域の中でどうやって暮らしていくか具体的に考えなければいけない。民間のアパートに暮らすのであれば、障がいのある人に寛容な地域「地域の包容力」を求めなければいけない。福祉のサービスだけに頼らず、地域住民の方にも一緒に支えてもらわないと、もう回らないことを地域の方に発信することが大事。支援者、行政の方も、そこまで追い込まれているという発想に立っていない人が多い。利用者のご家族も、まだグループホームに入れると思っている。

　・当事者、当事者のご家族から始めて、徐々に広がっていけばいいと思う。講演会よりは、ドキュメント映画の上映の方が良いと思うが人を集めるのは難しいと思う。

　・当事者の家族から、思いとかニーズを集めて、まとめたものを冊子にして見ていただく。

　・法人でグループホームを作ろうと思ったが、地元住民の大反対でダメになった。「子どもを外で遊ばせられなくなる」等の悲しい理由だった。

　・ＪＲのダイヤ改正で困っている方が多い。車を運転している人は苦にもならないが、高齢者や車を持てない障がいの方たちは困っている。共感しやすい話題として、まとめの一つにできたら。

　・グループホームがある地域の区長さんとか役員が集まるところに参加したら、「何でここに障害者」って聞かれた。利用者が畑の玉ねぎを持ってきてしまったことがあったが、会合の時に聞いていたから理解ができたと問題にならなかったこともあった。

　・子ども達が障がいがある人が身近にいるということを理解して、子ども達が理解すると、大人にも波及していきやすいのかなと思った。上映する映画もインクルーシブ教育というテーマなので、子ども達との繋がりという所も絡めながら統一していけるといいのかなと思った。

　・ご家族へのアンケートをこの部会でやることなのか分からない。これからこういう時代に入るんだけど、それに向けてっていう前置きがほしい。

（活動計画案）

　・部会で、当事者・当事者の家族を対象とした「地域での暮らし」についてアンケートを作成。圏域内の事業所で配布、回収していただく。まとめたものを、地域での役員会、会合等で見ていただき、地域の方、自治会等に障がいに対する理解を深めて頂けるような啓発活動を行う。また、ドキュメント映画（「みんなの学校」）の上映を企画する。